

## 6600V-CVT(E-Eタイプ・E-Tタイプ)の特徴

### 1. はじめに

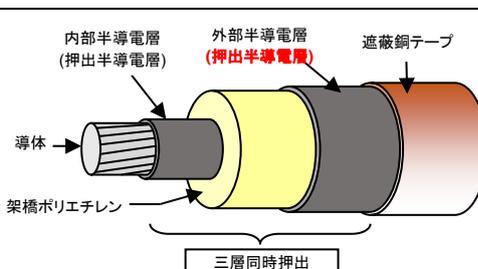
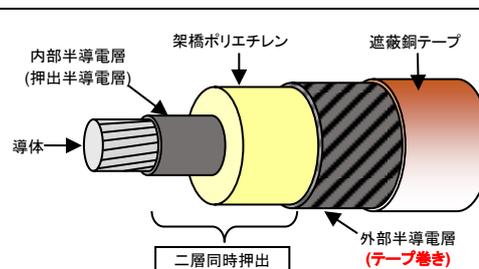
一般向けに販売している 6600V-CVTは、E-Tタイプ(\*1)が標準品となっています。近年、水トリー(\*2)対策品として電力会社で採用されている E-E タイプのケーブルを一般工事店でも採用する傾向があり、E-TタイプとE-Eタイプの特徴についてまとめました。

\*1 E: Extrude, T: Tape の略

\*2 水トリー: ポリエチレン絶縁体が長期に亘って、水が存在する状態で電圧に曝されたときに発生する劣化現象

### 2. 特徴

E-TタイプとE-Eタイプの特徴について以下に示します。

	E-Eタイプ	E-Tタイプ
構造概略	 <p>内部半導電層 (押出半導電層)    外部半導電層 (押出半導電層)    遮蔽銅テープ</p> <p>導体    架橋ポリエチレン</p> <p>三層同時押出</p> <p>外部半導電層が、<b>押出半導電層</b></p>	 <p>内部半導電層 (押出半導電層)    架橋ポリエチレン    遮蔽銅テープ</p> <p>導体    外部半導電層 (テープ巻き)</p> <p>二層同時押出</p> <p>外部半導電層が、<b>テープ巻き</b></p>
作業性	端末処理時、押出外部半導電層の剥ぎ取りに技術が必要。(別紙参照)	端末処理時、外部半導電層がテープのため容易に剥ぎ取りができる。
価格	E-Tタイプと比べ、価格が高い。	—
耐水トリー性	E-Tタイプと比べ、耐水トリー性が良い。	—

### 3. E-Eタイプの動向

- ・電力会社では 1985 年以降、E-Eタイプを採用しています。
- ・最近では一般需要家においても水トリー対策として、E-Eタイプへの張替えや新規布設が増えています。(一社)日本電気協会 需要設備専門部会 JEAC8011-2014「高圧受電設備規定」に 3層押出型架橋ポリエチレンケーブルが推奨されています。